

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990400075		
法人名	医療法人宮城会		
事業所名	グループホームみやぎ乙木口		
所在地	奈良県天理市三昧田町107-1		
自己評価作成日	令和元年6月8日	評価結果市町村受理日	令和元年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	令和元年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮城会の理念である「安心と信頼の医療・介護の提供」をもとに医療連携を密にしており、月2回の往診と週1回の訪問看護を定期的に受けています。また、専属で看護師を配置して体調の安定と異常の早期発見・早期対応に努めており、物忘れ外来の診療を行っている院長が精神・身体面の両方を確認し内服薬の調整を行っています。ご家族のご希望により、看取りの体制も確保しています。自然に生育している緑の草花や畑の野菜の成長具合を見ながらゆっくりと散歩し、収穫も行っています。地域との交流では、敷地内での祭の開催や幼稚園の運動会への参加や地域の店に出かけたり、行事への参加も行っています。今年度はフレイル予防のための運動を行ったり、外出の機会をどんどん増やしていき、レクリエーション活動の幅を広げ、豊かな毎日を過ごせるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体の事業所であるため、月2回の主治医の往診や専属看護師の配置など、医療面のフォローも充実しており、利用者が安心して過ごせる場となっています。事業所は市街地南部の田園風景が広がる場所にあり、平屋の建物は木を多く使用して温もりを感じると共に、広くゆったりした館内からは四季折々の景観も眺められ、心穏やかに過ごせる環境にあります。敷地内の菜園(畑)では季節野菜が栽培され、旬の食材で食事を楽しんだり、散歩や地域行事への参加の他、事業所内では昨年より祭りも実施され、地域の方々との交流が期待出来ます。また、外出支援では利用者の希望や意向を汲み取りながら、心豊かにその人らしく過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	宮城会の理念、グループホームの基本方針はホーム壁面と休憩室に掲示し、職員に周知している。	法人の基本方針を基にした、事業所理念を職員全員で共有しながら日々のケアに取り組んでおられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議へ地域の自治会長と民生委員の参加をお願いしたり、地域で行われている行事や幼稚園の運動会などに継続して参加している。また、地域の飲食店に出かけたり、敷地内で法人の祭を開催し地域との関わりを目指している。	自治会に加入し、地元幼稚園の運動会や地域行事に参加されています。また、昨年から企画された敷地内での祭りでは、地域の方々との交流も予定されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で職員が参加した研修の話などを伝え、グループホームや認知症に関する質問などがあればお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で上がった内容について、スタッフ会議などで報告し改善の参考にさせていただいている。	運営推進会議では、行事予定や活動の報告が行われ、出された意見・要望は検討を加えながらサービスの向上に活かしておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加いただき、運営状況や空き状況、取り組みを報告している。	市の担当者とは、認定調査や運営推進会議を通して情報交換が行われ、協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を実施し、会議などでも伝えている。また、夜間以外は施錠を行っておらず、身体拘束ゼロ宣言を玄関の壁面に掲げている。	全ての職員が身体拘束の内容と弊害を理解し、身体拘束ゼロに向けたケアに取り組んでおられます。また、玄関は日中施錠せず、隣接するリハビリ施設の利用など、自由な暮らしを支援する配慮もされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者がスタッフ会議で職員に伝えたり、研修を行い、不適切なケアについて考える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に届く『Nネット通信』を閲覧し、知る機会を設定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に書類の説明を行い、家族様や入居者様の要望や質問があればその都度理解していただけるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中での気づきや発する言葉を介護記録に残し、毎日の引継ぎにて職員に周知。また、会議等でも活用し対応している。運営推進会議では家族様の意見を聞き職員に伝えている。	面会時や運営推進会議での意見・要望には真摯に耳を傾け、検討を行いながら運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回職員と理事との懇談を行っている。また、月1回のスタッフ会議及び適宜意見や提案に対応している。	月1回の会議での話し合いや、最近では玄関周りを華やかにという職員からの提案により、花の植栽を実施されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は事務所にあり、いつでも閲覧できるようにしている。また、職員が参加したい研修にはできるだけ参加してもらっている。評価シートを使い、評価に則した給与形態にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や希望を踏まえて外部研修に参加してもらっている。また、毎月、所内研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、情報を得ている。また、他事業所とのつながりを大切に、月1回のケースカンファレンスでは事例の検討を法人で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に「暮らしの状況」を提出していただき、介護や対応の参考にしている。また、今困っていることや心配なことはないかなど、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームでの生活や対応の仕方などを説明している。質問に対しても理解していただけるまで丁寧に話をさせていただいている。入居後は体調不良など変化があれば、すぐ連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅で利用していたサービスから、ここでの新しい生活に向かうため、家族や他事業所と連携して本人の気持ちを受け止めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で一緒に作業をしたり散歩に出かけたりなど楽しみを共に感じる環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話を通して入居者様の様子を伝えている。また、行事などにも参加していただけるような働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との面会や家族様の協力でお盆や正月などの節目に自宅に帰られる方もおられる。	知人などの面会も時々あるようです。希望により、途切れがちな馴染みの関係の継続を支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が自由に関わっておられる場合は見守りを行っているが、輪に入りにくい場合はご本人の性格にも配慮をしながら、間に入り孤立防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、計画段階ではあるが、退所された方へも法人で行う祭の案内をお送りして関係の継続を行い、看取りをさせていただいた方へのグリーンケアにも取り組みを行っていきたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に意向を聴く努力を行い、プランに反映させることができるように対応。日々の業務の中で浮き上がってくる課題については、その都度職員と意見を出し合い対応している。	生活歴やケアプラン作成の際、家族から聞き取りを行ったり、日々の関わりの中から利用者の思いや意向の把握に努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様より「暮らしの状況」用紙に記入していただいたり、事前情報としてケアマネから情報収集を行ったり、通所サービス利用中に様子伺いに行くなどして、出来る限り多くの情報を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での観察、コミュニケーションの内容は介護記録に記録している。また、SNSを活用し、日々の小さな体調の変化も多職種で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員の観察から出てくる意見の聴き取りをしながら、会議を通して全体的な意見としてまとめ個人に必要なサービスの検討を行い、計画書を作成している。	本人・家族の希望や意向を踏まえながら、日常の気づきや課題を介護計画に反映されています。通常は1年に1回計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、それぞれの意見の聴き取りも随時行いながら、会議にてサービスの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	SNSを取り入れ、常時グループホームと担当医師、訪問看護が情報共有できるシステムを活用している。また、歯科往診や歯科衛生士によるケアも継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人が花や野菜などを届けてくれ、その食材を使用した料理を提供している。また、入居者が住まわれていた地域の行事に参加して楽しんでいただくように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の定期健診がある。また、日々の小さな変化や気になることなどはSNSを使用し情報の共有を行っている。	月2回主治医の往診があります。かかりつけ医の受診を希望される場合は、家族の付き添いを基本とされていますが、職員が同行されることもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により週1回の訪問看護を定期的に受けている。また、専属の看護師が常に体調の把握に努めており、介護職と協働しながら入居者の体調についての対応などを相談しながら行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医の紹介状とグループホームのサマリーを持参し、心身の状況やADLなどの情報を伝えている。また、体調が落ち着いてきたら面会に行き退院の時期や注意点などの情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針について説明し、家族の意向確認などを行っている。	入居時に重度化や終末期の指針についての説明と意向確認を行い、本人・家族の希望を優先に看取りまで対応されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故発生時のマニュアルを作成している。定期的にスタッフ会議等で確認し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練を実施、消防設備などの点検も定期的に行っている。また、運営推進会議で報告し、もしもの場合に備えて地域の人に協力を呼びかけている。	夜間も想定した年2回の災害避難訓練を事業所独自で実施し、利用者が避難できる方法も職員が身につけておられます。	災害時には地域住民の協力が不可欠であるため、運営推進会議等で避難訓練への参加要請と役割分担の明確化及び訓練で消防署の協力が得られるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や法人内研修などで認知症の方の理解や尊厳などの研修をしている。	会議や研修で利用者の尊厳とプライバシー確保について理解し、人格を傷つけることのない対応に努めておられます	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びやレクリエーション等への参加など自分の意向が反映できるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様の意見や意向を尊重しその人のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を自己決定するときは生活場面や気温を考えてアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や食器拭きなど時々ではあるが、入居者様と共同で行っている。また、能力に応じておやつ作りの全工程を職員と一緒にしている。	利用者個々の出来る範囲内で食事の準備等に参加されています。誕生日には希望のメニューを提供したり、利用者と共に畑で収穫した旬の食材も取り入れながら、食への関心を引き出す工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に1日分の水分摂取量や食事を記載し把握を行っている。食事形態の検討や補食の検討など個人に合った食事について、気になることがあれば話し合いを行いながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと就寝後の洗浄剤を使用した義歯洗浄を毎日実施している。歯磨きも個別の能力に応じ、必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックや水分のチェックは以前より行っていたが、排泄パターンの分析を行うために今後は排泄表の導入や使用パットの見直しにより個別にあった排泄介助を提供していく予定である。	個々の排泄記録を把握しながら、自尊心を傷つけることのないよう自立に向けた支援を基本に、個別の排泄介助も行われる予定です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と協働し、排便のコントロールを下剤の調整だけではなく、食事・水分・運動など個人の便秘になる理由を探りながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本人の意向を確認しながら入浴の援助を行っている。曜日の設定は現在行っていない。	従来の「希望の日の入浴支援」から、週2回を基本に、入浴日を決めた入浴支援への切り換えを試みておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の生活習慣などに応じて休息や睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の看護師が全入居者様の薬の把握と管理を行っている。薬の目的や副作用は薬の説明書で把握。変更等は、入居者様申し送りノートで各職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにより各入居者様に合わせたレクリエーション活動を行っている。また、フレイル予防のための運動を積極的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向を確認して散歩やドライブを日常的に楽しんでいただいている。家族様との外出も多く、地域の行事などの参加も継続して行っている。	日常的に散歩や買い物、ドライブを楽しんでおられ、時々家族と外出される利用者もあり、地域とのふれあいや出かけることの喜びを提供できるよう支援されておられます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった際は自宅への電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節折々の花や飾りを取り入れ、温かみのある照明や落ち着いたような音楽を取り入れられている。	事務室から各ユニットの様子が視界に入るという造りで、畳の間も設けられ、廊下は広く窓からの採光も適度にあり、ゆったりと居心地よく過ごせる「和」の共用空間となっています。また、ホールには季節を感じる飾りつけもされており、五感刺激への配慮が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや事務所前のカウンター席、玄関前の椅子など1人でゆっくり過ごせるように配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家族様にレイアウトをお願いし、家族の写真や馴染みのある小道具やホームで制作した作品等を置いて、居心地がよく落ち着いた雰囲気になるように努めている。	ベットとエアコンが備え付けられたシンプルな居室には、個人の使い慣れた家具や馴染みの物が置かれ安らぎの場となっています。また、窓際の小さなカウンターも特徴的です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで両ユニットの入居者様同士も交流できるような環境を作っている。トイレや居室にはわかりやすいように目印をつけるなどの工夫も行っている。		